



## センター設立40周年を迎えました

千葉大学大学院看護学研究院附属 看護実践・教育・研究共創センター長 わずみ よしこ  
和住 淑子



今年度は記念すべきセンター設置40周年の年となりました。11月には40周年記念の看護学教育シンポジウムをオンラインで開催することができ、500名を超える方々のご参加をいただくことができました。新名称「看護実践・教育・研究共創センター」も皆様の中で定着しつつあることを、嬉しく思っております。

40周年を機に、当センターの組織としての歴史を振り返ってみたいと思います。看護学が独自の教育研究分野を確立しつつあった昭和50年代半ば、看護系大学の教員等、看護学分野の調査研究に従事する者、指導的立場にある看護職員の共同利用に供することを目的として、1982年(昭和57年)4月、当センターは設置されました。当時の社会情勢に鑑み、組織は、継続看護研究部・老人看護研究部・看護管理研究部の3研究部構成でした。その後、急速に進展する少子高齢化社会とその看護ニーズに応える看護ケア開発を促進するため、老人看護研究部をケア開発研究部と改称しました。さらに、保健・医療・福祉制度の改革に伴う看護職者の役割拡大に関わる政策研究やキャリア開発を促進するため、看護管理研究部と継続教育研究部を発展的に統合し、政策・教育開発研究部が発足しました。

それまでは、研究部を組織し、その教員が中心となってセンター事業を進める体制でしたが、2021年(令和3年)、看護学研究科が看護学研究院へと改組され、教育組織と教員組織を分離する組織改革が行われました。以降、当センター固有の教員組織はなくなり、コア・メンバーを中心とする看護学研究院全教員が、委員会を組織し、教育・研究・社会貢献およびFD活動の一環として、センター事業に参画するようになりました。これを機に、学内教員のみならず、学外の看護系大学教員・看護管理者も事業に参画する体制を整備しました。これにより、センター事業にかかわる人材のすそ野が一気に広がりました。

このように40年を振り返ってみますと、「社会が期待する看護の価値の創造に向けて、実践-教育-研究をつなぎ、利用者との共創のもと、全国の看護系大学および地域の関連施設の機能の充実・発展を目指す」という当センターの目的は一貫して変わらないことが確認できます。この時代の変革期に、当センターを利用してくださる皆様が相互に響き合いながら、創造的な取り組みを続けていくことを支援する拠点でありたいと思っております。皆様のご活用をよろしくお願いたします。

当センターでは、看護学教育に関する国内外の動向を共有し、各大学の教育の質改善のため、ホームページでの情報発信はもちろんのこと、個別指導や情報交換できるよう、下記のようなコンテンツ等を配信しております。

- FDマザーマップ・支援データベース  
(看護系大学のFDを支援するFDプランニング支援データベース)
- 組織変革型看護職育成支援データベース  
(教育-研究-実践をつなぐデータベース)

また、メーリングリストを改め「拠点インフォメーションメール」とし、看護系大学等との連携・協働のための情報発信力向上に努めております。受け付けは随時行っておりますので、担当窓口部署、窓口担当者名を記入の上、件名を「(〇〇大学)拠点インフォメーションメール登録申し込み」とし、[kango-cqi@chiba-u.jp](mailto:kango-cqi@chiba-u.jp)までお申し込みください。



<https://www.n.chiba-u.jp/center/>

# “Society5.0 看護” 創出拠点 —ピア・コンサルテーションを通じて共創する人間中心の健康支援方略—

当センターでは、令和2年度から、「“Society5.0看護” 創出拠点—ピア・コンサルテーションを通じて共創する人間中心の健康支援方略—」事業に取り組んでいます。

Society5.0に示されるように、サイバー空間とフィジカル空間の融合による経済発展と社会的課題解決を両立する、人間中心の社会を目指すことが求められています。しかし、これまでの医療分野の発想は、「対象者に何かを提供する」「外から何かを補う」という傾向が強く、自ら力を発揮して生きたい、という人間が本来もつ真のニーズにうまく対応できていませんでした。

**【事業概要の説明図】**

## “Society5.0看護” 創出拠点 —ピア・コンサルテーションを通じて共創する人間中心の健康支援方略—

**【事業目的】** 医療分野におけるSociety5.0の実現に向け、最新のテクノロジーを最良の健康支援に結びつける健康支援方略＝“Society5.0看護”を創出・発信する。

**【現状と課題】**

Society4.0では、経済や組織といったシステムが優先され、個々の能力などに応じて個人が受けるモノやサービスに格差が生じ、さまざまな社会的課題が生まれている

医療分野では

看護職者は、次々と起こる目の前の課題解決のために疲弊  
人々の健康支援の質を左右する重要情報の特定・蓄積が遅れ、IT機器等最新のテクノロジーが、最良の健康支援に結びついていない

看護実践研究指導センターの実績

H28-31 運営費交付金特別経費 「看護学教育の継続的改善(CQI)モデルの開発と活用促進」  
H23-27 運営費交付金特別経費 「看護学教育におけるFDマップの開発と大学間共同活用の促進」  
H22-26 運営費交付金特別経費 「教育—実践をつなぐ組織変革型看護職育成支援プログラムの開発」  
S57— 全国向け研修事業 看護系大学教員・臨床実習指導者・大学病院看護管理者養成、実践現場の最新動向集約

**【取組内容】**

**第1期:ピア・コンサルテーションを活用した研修型課題解決支援システム構築**

健康支援の質を左右する重要情報を特定  
最良の健康支援に向けて自律的に課題解決に向かう

ドローンから見ると、自組織や自身の現状とその変化を俯瞰・分析

※ピア・コンサルテーションとは、目的を共有し、利害関係のない研修参加者が、グループワークを通して、相互に刺激し支援し合うことを指す

利用者  
ピア  
コンサルテーション  
利用者

健康支援の質を左右する重要情報は蓄積し  
看護実践・看護学教育の改善に活用可能なデータベースの構築

※ピア・コンサルテーションとは、目的を共有し、利害関係のない研修参加者が、グループワークを通して、相互に刺激し支援し合うことを指す

患者さんは何を一番大切に生活している？  
その病院の地域における役割は？

**第3期:“Society5.0看護”の創出・発信**

研修型課題解決支援システムとデータベースを一体化した“Society5.0看護”創出システムを構築し、最新のテクノロジーを最良の健康支援に結びつける新たな健康支援方略を解明し、社会に発信

**【事業達成による効果】**

- 学問的効果: AI, IoTが当たり前の時代に人間中心にテクノロジーを使いこなす、新たな健康支援方略が解明される
- 社会的効果: 各施設(教育機関・医療機関)の課題解決の軌跡が可視化され、組織の改善や変革の方向性の見定めが可能となり、人間中心の社会実現が促進される
- 大学の教育研究活動にもたらす改善効果: 急増する看護系大学の教育内容の改善効果により、社会のニーズに即した医療人材育成が行われる

**【KPI】**

- 現行FD・SD研修から「研修型課題解決支援システム」への移行、利用率、利用効果
- 健康支援の質を左右する重要情報データベースの構築、データ蓄積数
- 最新のテクノロジーを最良の健康支援に結びつける新たな健康支援方略の発信数
- 本事業に参画した看護職者数、所属施設数、所属施設の多様性

本事業では、看護職者のピア・コンサルテーションを通じて、健康支援の質を左右する重要情報を特定し蓄積・活用できるしくみを構築することにより、自らの力を発揮して生きたい、という人間が本来持つ真のニーズに即して、テクノロジーを人間中心に使いこなす方略を看護学の立場から新たに解明し、それを“Society5.0看護”として創出・発信することを目指します。具体的には、当センターが実施しているピア・コンサルテーションを活用した課題解決型研修における課題解決プロセスをデータベース化し共有できるしくみを構築します。

## ピア・コンサルテーションを活用した 課題解決プロセスデータベース構成(案)

テーマ
1. 自組織の紹介と組織における自身の立場・役割
2. 研修当初に解決したいと考えていた組織課題
3. ピア・コンサルテーションによって見えてきた目標像
4. 描いた目標像に照らし、とらえなおした組織課題
5. 目標に向かって組織課題を解決するためにとった方略
6. 課題解決プロセスにおける自身の行動、行動の結果得られた反応や成果
7. 課題解決プロセスにおける自身のものの見方・考え方の発展
8. 一連のプロセスを通してグループメンバーから得られた刺激や示唆

## 課題解決型研修

### －看護系大学教員向け・看護管理者および中堅看護師向け－

2021年度より当センター研修事業は、従来の形態を抜本的に見直し、参加者相互のピア・コンサルテーションを主体とした課題解決型研修へと大幅にリニューアルしました。本研修では、研修参加者5～6人のグループに、1～2人の担当ファシリテータを固定した継続支援を行い、およそ2カ月ごとに5回のグループミーティングを実施します。受講生は、自身の課題について発表し、利害関係のない研修参加者が、相互に刺激し支援し合いながら、自組織や自身の課題を俯瞰的に見つめ直す機会であるピア・コンサルテーションを行います。従来の知識提供型研修ではなく、研修参加者が主体となった「出力型」研修であるという特徴を有しています。研修形態は全てオンライン同時双方向にて実施し、昨年度の受講生からは、「オンラインなので移動距離を考えず参加できる」「グループミーティングの時間だけ勤務時間内に確保すればよいのでスケジュールを組みやすい」等、参加しやすいとご好評をいただきました。あらためて、様々な社会変化への対応に迫られ山積する組織課題に直面しながらも、根本的な課題解決に向けた準備や自己啓発のための時間が持てない現場の方々のニーズに合致した研修形態であることが確認できました。今年度はさらに、受講生専用ホームページの開設や、開講時の受講生全体会の開催など、組織課題の解決に向け受講生が自らの学び力を自発的に発揮できる研修内容の充実を進めています。

今年も看護系大学教員28人、看護管理者および中堅看護師56人と、昨年同様多くの方々に本研修への参加をいただいています。研修参加による学修効果として、看護系大学教員の受講生は、組織の一員として自分自身を客観視し組織運営に携わる能力や、大学職員や教育者としての気づきを得て行動する基礎的な能力への学修として、組織課題の解決だけでなく教員自身の振り返りや自己成長を実感していました。また、看護管理者および中堅看護師の受講生は、ピア・コンサルテーションを通じて自明となっている自組織の状況や課題の言語化が促され、他組織との頭脳活動の活性化によって課題を俯瞰的・多角的に捉える発展を実感していました。さらに、組織内での合意形成の促進や、チームビルディングに繋がる効果がありました。このことは、2022年12月開催の第42回日本看護科学学会学術集会にて発表いたしました。

次年度も更なるブラッシュアップを図り、充実した研修を実施する予定ですので、自組織や自身の課題解決に自律的に取り組む意思のある看護系大学教員・看護管理者および中堅看護師の方々のご参加をお待ちしております。



## 看護学教育シンポジウム+ web セミナー

看護実践・教育・研究共創センターは、千葉大学看護学部附属として1982年に設置され、名称や役割を変化させながら、本年度で40周年を迎えました。例年『看護学教育ワークショップ』を行っていましたが、今の時代にあった当センターが担うべき事業にリニューアルし、『看護学教育シンポジウム+webセミナー』として開催することになりました。さらに40周年を記念して無料開催で行いました。

DX、Covid19、少子高齢社会、Society.5.0社会、多様で包摂的な社会など、社会の変化は激しく、大学には、個々の大学のミッションをふまえて、社会の変革やイノベーションが可能な人材育成が一層、求められています。そのような背景のもと、全体テーマを「激動の時代における看護系大学教員の次世代育成」としました。また、今回の企画では当日のライブ配信に加えて、見逃し配信、セミナーについては事前収録のオンデマンド配信で視聴できるようにしました。全体の申込は558名、当日のライブ配信は230名を超える参加者となり、あらためて多くの看護系大学の教員が関心をもつテーマだと確認できるとともに、WEBのメリットを実感いたしました。看護や教育のイノベーションへの期待について、熱意をもって伝えて下さった講師の先生方にあらためて御礼申し上げます。

### 教育講演：「コロナ後に求められる社会の変革を視野に入れた大学教育のあり方」

中央教育審議会委員・関西学院大学学長 村田治先生

### シンポジウム：「看護系大学における『Society5.0』時代を見据えた次世代育成」

JANPU代表理事・日本赤十字豊田看護大学学長 鎌倉やよい先生

湘南医療大学教授・看護学科長 川本利恵子先生

日本福祉大学教授・看護学研究科長 宮腰由紀子先生

### webセミナー：「看護系大学における教育の質保証と今後の課題」

文部科学省高等教育局医学教育課看護教育専門官 渡邊美和先生

今回のシンポジウムのテーマは、今後も継続的に取り組むべき課題であると考えています。また、当センターでは、今後も多くの大学の関心事、時事のテーマを扱いながら、状況や立場の異なるシンポジストとの意見交換から、参加者個々が示唆を得ること、さらに情報や知識を求める参加者や新人教員にも活用してもらえるセミナーも合わせる形式のシンポジウムを開催予定です。多くの方に参加していただき、看護学の未来を見据えた建設的なディスカッションの場を共創していきたいと考えます。

**看護学教育シンポジウム webセミナー**  
激動の時代における看護系大学教員の次世代育成

令和4年  
**11月29日** 13:00~16:00  
40周年記念  
Zoomによるウェビナー開催  
無料開催  
見逃し配信期間：12月5日(日)~12月19日(日)

**プログラム**

**【教育講演】**  
「コロナ後に求められる社会の変革を視野に入れた大学教育のあり方」  
中央教育審議会委員・関西学院大学学長 村田 治

**【シンポジウム】**  
「看護系大学における『Society5.0』時代を見据えた次世代育成」  
座長 千葉大学大学院看護学研究科教授・センター長 和住 淑子  
千葉大学大学院看護学研究科助教授 中山 登志子  
シンポジスト・JANPU代表理事・日本赤十字豊田看護大学学長 鎌倉 やよい  
湘南医療大学教授・看護学科長 川本 利恵子  
日本福祉大学教授 宮腰 由紀子

**【WEBセミナー】**  
見逃し配信期間：12月5日(日)~12月19日(日)  
「看護系大学における教育の質保証と今後の課題」  
文部科学省高等教育局医学教育課看護教育専門官 渡邊 美和

申し込みはこちら！  
申し込みURL: <https://www.n.chiba-u.jp/center/form/symposium/>  
申し込み期間：11月28日(日)16時 申し込み受付開始 申し込み受付終了  
主催：千葉大学大学院看護学研究科附属 看護実践・教育・研究共創センター  
TEL:043-226-2464・FAX:043-226-2465・E-mail:kango-cqi@chiba-u.jp

看護学教育研究共同利用拠点

発行

千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター

〒260-8672 千葉県千葉市中央区亥鼻 1-8-1 U R L : <https://www.n.chiba-u.jp/center/>  
TEL : 043-226-2464・2377 総務第三係(センター研修担当) E-mail : [kango-cqi@chiba-u.jp](mailto:kango-cqi@chiba-u.jp)